

小中高等学校における郷土教育・地域と連携した学び

経済、社会、文化等のさまざまな面でグローバル化が進展する一方で地方創生、地域活性化の取組が進められている中、子どもたちには、郷土のよさについて誇りを持って語ることができる力とともに、地域への愛着や関心を持ち、地域のために考え行動しようとする意欲や態度、主体的に課題を解決する能力を育むことが求められています。

1 小中学校における郷土教育の取組

子どもたちが郷土を知り、郷土を愛し、三重県について誇りを持って語ることができるよう、各学校では地域の自然、歴史、文化などを学ぶ取組を行っています。市町においては、独自の教材や資料を作成するとともに、地域の産業に関する学習や地域で活躍する方々から学んだり、地域で受け継がれている祭りに参加したりするなど地域の資源や独自性を生かしながら、子どもたちの主体的な学習を促し自らの考えや意見を発信する力を育成するための取組が進められています。

(1) 県教育委員会における取組

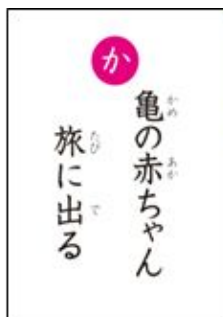
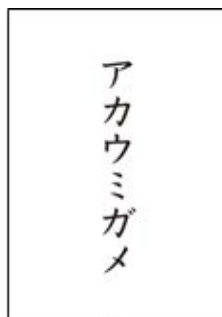
- 県教育委員会では、郷土教育を推進するため、中学生用教材「三重の文化」(熊野古道編、郷土の文化編)、郷土の題材を取り上げた道徳教材「三重県 心のノート」、遊びや言語活動を通して郷土に親しむ「ふるさと三重かるた」を作成し、学校での活用を推進してきました。



「三重の文化」



「三重県 心のノート」



「ふるさと三重かるた」

- 平成 26 年度からは、郷土に関する課題解決力や発信力、コミュニケーション力等を一層育成するため、「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」及び「中学生からの提案・発信」（令和2年度から課題解決型学習を通じた新しい郷土教育推進事業へ移行）を行っています。

「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」

中学生が、三重県の豊かな自然や歴史、祭り、郷土に尽くした人物等、魅力あふれる「郷土三重」についての学習を深め、その魅力について英語でワンペーパーにまとめ、発表します。

令和2年度からは、中学生が郷土三重についての学習を深め、その魅力を発信できる力を育むことを目的に、ワンペーパーの内容に、中学生ならではの視点で三重を訪れる外国人観光客や県民に知ってほしい地域の隠れた名所や名品、観光地の知られざる魅力等を加えました。

平成30年度には、中学生がふるさと三重について英語で発信する際に役立つ「Let's Talk About Mie ふるさと三重英語教材」を作成し、県内各小中学校での活用を図っています。



ワン・ペーパー・コンテスト 2020 入賞作品

「My Favorite place」（紀宝町立矢漕中学校 岡崎 紫音さんの作品）



三重県教育委員会

ふるさと三重英語教材

1 市販のページ

TSU CITY

Tsu is in the center of Mie Prefecture and is convenient for transportation. It is the capital of Mie Prefecture. Tsu is as large as Lake Biwa. The city name "Tsu" is the shortest of all the cities in Japan. There are historical places like temples and shrines, beautiful seas and mountains. The city has a good balance of nature, culture and history.

transportation 交通 capital 県庁所在地 Lake Biwa 琵琶湖

Shimomochi kun, what is "mochi" in English?

Rice cake. Mochi is made from rice.

シロモチくん

Tsu Gyoza

Tsu Gyoza is a type of fried dumpling. Its size is about 15 centimeters or more. It is much bigger than normal ones. It started as a menu item in school lunches in Tsu City. School nutritionists invented Tsu Gyoza considering the students' nutrition and satisfaction. Now, many restaurants in Tsu serve Tsu Gyoza and they are popular.

fried dumpling 揚げ餃子 centimeter センチメートル normal 通常の school lunch 学校給食 school nutritionist 学校栄養士 invent 考案する consider 考慮する nutrition 栄養 satisfaction 満足 serve 提供する

Tsu Gyoza

-24-

1 市販のページ

Todo Takatora

In 1556, Todo Takatora was born in Todo village, Oheinkuni (now Kora cho in Shiga Prefecture). He was a great military commander and he was highly trusted by Tokugawa Ieyasu. Also, Takatora was known as an expert castle builder. He built and repaired many castles in Japan.

Todo village 桑堂村 Oheinkuni 近江の国 military commander 武将 trust 信頼する expert 専門家 castle 城 builder 建てる人 repair 修復する

Todo Takatora

Sakakibara Onsen (Sakakibara Hot Spring)

In the Heian Era (794-1185), the Sakakibara area was called "Nanakuri". A famous female writer Seisho Nagon wrote in her essay "Makuranozohi" (990): "God hot springs are Nanakuri, Arisa and Tamatsukurii." That is why the Sakakibara Hot Spring is known even now as "the best hot spring according to Seisho Nagon". The spa water is great for smoothing the skin and is called "Shijin no yu" (a spring for skin treatments).

hot spring 温泉 era 時代 Nanakuri 七楽 female 女性の writer 作家 according to ~によると Seisho Nagon 清少納言 essay 随筆 Makuranozohi 枕草子 spa water 温泉水 smooth なめらかにする treatment 手入れ

Sakakibara Hot Spring

Tsu Festival

This festival is held every year in October and is the biggest festival in Tsu City. In particular, Tojin odori is an interesting attraction. It started 370 years ago. Dancers in gorgeous costumes put on funny masks and perform a unique dance. The dance is said to have come from Korean Envoys. It is designated as an intangible folk cultural property by Mie Prefecture. Another popular dance at Tsu Festival is Yosaki dance. More and more people have joined in the dancing in recent years.

held 開催される Tojin odori 唐人おどり attraction 見物 魅力 gorgeous 豪華な costume 衣装 mask 面 Korea Envoys 朝鮮通信使 in recent years 近年

Tsu Festival

-25-

「Let's Talk About Mie ふるさと三重英語教材」

「中学生からの提案・発信」コンテスト

生徒会や委員会、部活動、その他のグループが主体となって、身のまわりの課題の解決に向けて取り組んだ事例や効果をあげた実践、これからの取組について提案・発信を行います。



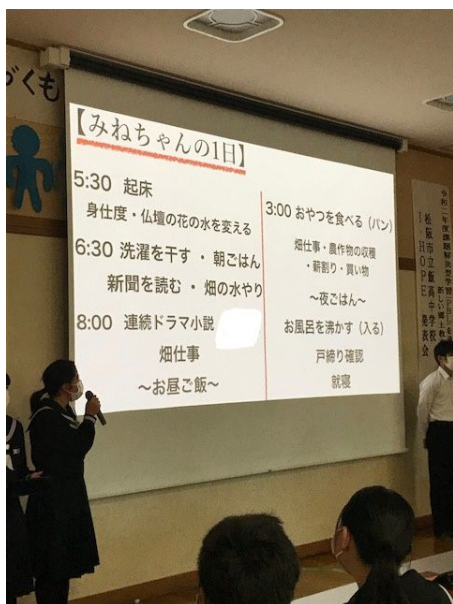
- 令和2年度からは、子どもたちが郷土への愛着や誇りを持ち、三重について発信する力を身につけることを目的に、課題解決型学習(PBL)の手法を取り入れた郷土教育を推進しています。県内の中学校を実践校に指定し、中学生が課題解決型学習の手法を取り入れて取り組んだ地域での学習活動やその中で発見した地域の魅力について発表する実践発表会を実施しています。

松阪市立飯高中学校の取組「I-HOPE」

地域、人権・福祉、環境のテーマに分けて、生徒が住む飯高町の課題を見つけ課題解決のための学習を行っています。例えば、「郷土」のテーマでは地域の文化財や鳥獣被害について、「人権・福祉」では高齢者福祉について、「環境」のテーマでは地域に増えつつある

太陽光発電や飯高の名所「^{めずらしとうげ}珍布峠」でのゴミ放置問題などの地域課題について学習を進めました。学習の成果は、地域の方々を招いた発表会(I-HOPE 発表会)において、生徒自らが制作した動画も使いタブレット端末等を用いて発表されました。

地域の文化財の魅力発信方法を検討した班では、文化財の場所や内容をわかりやすく紹介する動画を作り、その動画が見られるサイトにアクセスするQRコードを付けた看板を制作・設置するなど、それぞれ工夫をこらした提案を行いました。



「I-HOPE」に参加した生徒の声

- 班員と色々な意見を出しあいながら協力して進めていくことができました。ご協力いただいた方々に感謝の気持ちを持ち続けたいです。
- 地域とつながることによって色々な方々から話を聞けるんだと、改めて地域とのつながることのよさを感じることができました。
- 飯高の歴史についてよく知ることができました。地域活性化にも貢献できたのなら嬉しいです。

(2) 市町の特徴ある郷土教育の取組

「人と人をつなぐ」ふるさと教育(南伊勢町)

将来にわたって「ふるさと南伊勢」に誇りと希望が持てる子どもたちを育てるため、町内全ての小中学校が地域の資源を生かした教育に取り組むとともに、小中学生がふるさとについて学んだことを地域へ発信し、地域住民とともに地域について学び、考える場として「ふるさとフォーラム21」を開催しています。令和2年度は各小中学校の発表の様子が町の行政テレビで放映されました。

(平成30年度キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰)

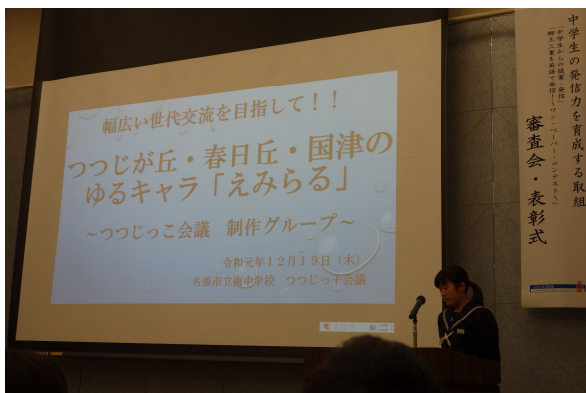


小中学生・地域が連携した「つつじ子会議」(名張市)

名張市立南中学校及び名張市立つつじが丘小学校の児童生徒が中心となって、地域と連携した取組を行っています。自分たちの住む地域の課題について地域の方々と話し合うとともに、課題の解決に向けて取組を児童生徒が主体的に企画・発信しています。

平成29年の取組開始以降、これまでに地域の行事「子どもフェスタ」への参画や、地域を愛する気持ちを育むキャラクター「えみらる」の制作に取り組んでいます。

(令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰)



(3) 課題

- ・ 県内の各小中学校では、それぞれの地域について学ぶ取組は行われているものの、地域の課題に児童生徒が自ら向き合い、主体的に学習を深めようとする取組は一部の学校にとどまっていることから、課題解決型学習の成果を、広く普及していく必要があります。
- ・ 「ワン・ペーパーコンテスト」等をとおして地域の魅力を積極的に発信する取組に参加する学校や地域が限定的であることから、その意義をあらためて周知し、取組を県内全域に広げていく必要があります。

2 高等学校における地域と連携した学び

高校生が地域への愛着を深め、地域のために考え行動しようとする意欲を身につけられるよう、生徒が地域課題や特色ある産業を題材に地域の方々や職業人と関わりながら、実社会での実践活動に取り組むことで、地域の魅力と課題を知り、解決方策を考え実践する人材を育成します。

(1) 地域課題解決型キャリア教育

地域の小規模校(9校10校舎)を実践パイロット校に指定し、地域と学校をつなぐ巡回型のコーディネーターを配置して、高校生が地域課題や地域の特色ある産業を題材に地域住民や職業人と関わりながら主体的に課題解決に取り組むことを通じ、実社会の課題に協働して対応する力など、これからの社会で生きる力を育てています。具体的には、地域行政や職業人等からの講義、地域でのフィールドワークやインタビュー、地域産物を題材とした商品開発、地域活性化について行政への提案、県内外の先進地での高校生との交流等の学習や活動を通じて地域の課題解決に取り組んでいます。

県立飯南高校の取組

1年生での「産業社会と人間」では、地域振興局職員から飯南地域の概要を学ぶとともに、地域の産業や観光資源のフィールドワーク等を通じて地域を知り、課題を見つけ解決策を考察します。2年生での「キャリアデザイン」では、地元企業でのインターンシップ等を通じて、過疎地域での企業経営等の工夫や努力、展望等について地域の大人から学びます。さらに3年生の「いいなんゼミ」では、1・2年生で学んだ知識や経験に加え更に大人の意見を自分で聞き取ったりしながら研究を深めてレポートをまとめ、「いいなんゼミ発表会」において地域の方々等に学習の成果を発信します。



県立志摩高校の取組

「総合的な探究の時間」を利用して、生徒全員が3年間にわたって地域で体験活動し、地域について考える「志摩学」の探究活動に取り組んでいます。1年生では、志摩市内各所へのフィールドワーク等で地域を知り、2年生では、市内の各事業所でのインターンシップや事業所訪問等で地域の産業を体験し、地域について考えます。さらに3年生では、「未来に残したい地域のタカラ」を見つけ、それに関わっている大人との対話を通じて志摩市の未来について考えるなど、グループでの考察、クラス発表、学年発表等を経て、全体の成果発表会を通じて学習の成果を共有しています。



高校生地域創造サミット

実践パイロット校の生徒をはじめ、地域活性化に興味関心のある県立や私立の高校生が参加し、日ごろの取組の成果を発表・共有します。また、サミット開催地の地域課題を題材として、大学生のサポートを受けながら、フィールドワークや他校の高校生とのディスカッションを行い、高校生ならではの地域課題の解決策を主体的に考え行動することで、地域創造や地域活性化の重要性について理解を深めます。



(2) 地域と連携した探究的な活動

県立高等学校の総合的な探究の時間等において、地域課題をテーマとした課題研究に取り組んでいます。近隣の海岸や池などにおける生物の生態調査、植物の開花調査など、自然科学をテーマとしたものから、過疎化(少子高齢化問題)、伝統産業の衰退、地域産業の活性化等、社会問題の解決を図るものまで多岐に及んでおり、特に、社会問題をテーマとした課題研究では、地域の有識者や市役所職員等に対して、学校での教育活動の成果を発表している学校もあります。

県教育委員会では、各校における探究的な活動の質の向上を図るため、「探究コンソーシアム」(令和2年度は14校が参画)を立ち上げ、探究的な活動の指導方法や評価方法等について協議・研究するとともに、各校の実践を共有し、生徒の発表機会の創出を目的に、「みえ探究フォーラム」を開催しています。

「みえ探究フォーラム」では、中学生や高校生が日ごろ取り組んだ自由研究や課題研究等の成果発表、生徒同士の意見交換等を行い、生徒の考える力やディスカッションする力等を育てています。

【参加高校の作品例】

- ・伊坂ダムにおけるプランクトンの生物同定(桑名西高校)
- ・神戸公園の花粉調査(神戸高校)
- ・海女漁の現状と課題(津西高校)

(3) 課題

- ・地域での活動や探究的な活動において教職員の指導や関わりが多い場合、生徒の主体的な探究活動にまで深まっていけないことがあります。マンネリ化、マニュアル化に陥ることなく、生徒の疑問、探究心や教職員のアイデアを大切にしながら、生徒の主体的な学習に結びつけていくことが必要となっています。
- ・地域と協働した学びの体制を継続的に維持・発展させていくことも大きな課題となっています。

3 今後の取組方向

今後も引き続き、子どもたちが地域の一員として、身近な地域や社会の課題を主体的に考え、その解決に取り組み、郷土三重を担う力を身につけていけるよう、小中学校、高等学校における各取組を推進していきます。